

# 雑誌『社会及国家』解説・総目次

## ——一高・帝大同窓生というネットワーク——

小関 有希

### はじめに

『社会及国家』は結社「一匡社」によって発行された同人雑誌である。政治・経済・国際問題等に関する時事評論を中心に掲載し、1913（大正2）年9月から1941（昭和16）年4月まで、28年間に全297号が発行された。同人誌としては長期にわたる発行期間もさることながら、「社員」と呼ばれた同人のほとんどが旧制第一高等学校と東京帝国大学の同窓生であるという点で、特異な雑誌である。目次には大正・昭和の政財界・ジャーナリズム界で活躍した人物の名が散見され、「帝大コミュニティ」ともいえる広大で多彩な交友関係が繰り広げられている。

多領域にわたって著名な執筆者が本誌には見られるものの、同人誌という性質上、所蔵施設が限られていたこともあって、その内容についてはほとんど研究されてきていない<sup>(1)</sup>。しかし、後述するように、この雑誌を媒介としたネットワークは大きな役割を果たしていた可能性がある。また、限られた同人に向けられて語られる独自の情報をもうかがうことができよう。

そこで本稿では、雑誌の概要を簡単に紹介するとともに、『社会及国家』総目次によりその全体像を俯瞰する資料を提示したい。なお、主要な執筆者については本論の後に略歴をまとめているので適宜参照願いたい。

### 一 『社会及国家』創刊の経緯

「一匡社」は、1913（大正2）年4月に結成されたいわゆる政治結社である。発起メンバーは津島寿一、君島一郎、岸巖、藤井啓之助、宮澤源吉、遠藤始郎、大村正夫、額田晋という20代半ばの青年たちで、1908（明治41）年に第一高等学校大学予科を卒業し東京帝国大学に進学した同級生であった。

『社会及国家』創刊号に掲載された「宣言」によると、一匡社結成の目的は「一、吾等ハ国民ノ国家的及社会的活動ノ正当ナ範圍ヲ探求シ、主張シ実行セム事ヲ期ス一、斯ノ如クニシテ吾等ハ国運ノ振興ニ努力シ国民殊ニ青年ノ志気ヲ鼓舞セム事ヲ期ス」の二点である。創設社員である君島によると、当時は明治天皇崩御という衝撃に加え、外交においては朝鮮半島や中国で列強との軋轢が勃発、国内においては幸徳秋水事件に代表される社会主義思想、労働問題の台頭など問題が山積し、日

露戦争後の不景気と相まって社会全体に「国家の前途に対する不安感」が蔓延していたという。

これが世に出たばかりの青年たちの心を動かさないはずはない。集まるたびに話は四方八方に飛ぶが、落ち着くところは天下国家そして社会である。同年（引用者注：1912年）の秋から寄り寄り話が進み、そして前記のように二年の四月八日に一匡社の創立ということになったのである。社名を一匡と論語から選んだのは岸の発案。会員はだんだんとふえる。後援者も出て来る。そこで社の機関雑誌を出してわれわれの主張と研究とを天下に問おうという事になった。（中略）集まった面々はいずれも意気盛んで、今にも天下の世論をリードしようという氣勢<sup>(2)</sup>だった。

こうして、毎月一回の研究会にて社員の研究発表および討議を行うこと、その主張ならびに研究結果を発表する場として雑誌を発行することが定められた（「一匡社別規」）。4月の結社後、8月には第一回研究会が、9月には第二回が開催され<sup>(3)</sup>、同月に早くも機関誌が発行された。それが『社会及国家』（創刊当初は『社会及国家に関する一匡社の主張及研究』）である。

編集兼発行者には行森昇（明治41年一高、45年法科卒）が就き、行森とともに第一高等学校で文芸部委員を務めた岸・杉田直樹（明治41年一高、大正2年医科卒）のほか、津島が編集に携わったという。奥付の発行者および発行所欄にある住所は額田の居所、発売所は有斐閣で店主の江草重忠（明治37年農科卒）も一匡社社員であった。

雑誌は1巻1号からスタートし、ほぼ半年ごとに巻数を改めていたが、7巻5号（1917. 1）の次を42号として以下は号数のみを通し番号で振るようになっている。発行期間中、唯一の長期休刊は1923年9月に発生した関東大震災後で、編集中の111号が印刷所とともに焼失したために110号（1923. 8）を最後にやむなく休刊に至った。ただし、休刊中にも社員たちの動向をまとめたリーフレット「一匡社社報」が発行されており、1926年1月の復刊時にはこの「一匡社社報」1～8号を111号～118号として数え、119号から再開している。

創設時の社員には、金森徳次郎（大蔵省、法制局を経てのちに国務大臣・初代国立国会図書館長を歴任）、林茂樹（朝鮮総督府で道知事や学務局長を務める）、伊澤道雄（鉄道院から南満州鉄道、北支那開発会社を経て日本交通公社理事）ら、1908（明治41）年に第一高等学校を、1912（明治45）年に東京帝国大学法科を卒業した同級生が顔を揃えた。以降の入社には既存社員2名の推薦と総会における全会一致

での承認が必要であり、入社に至った者は逐次『社会及国家』の「社報及通信」欄で報告された。なお、「社報」には一匡社総会での決議事項や研究会報告のほかに、社員の転職、転属、結婚、旅行報告などが掲載されており、各社員の公私にわたる動静を知ることができる。

一方、社員とは別に社友制度を持ち、一匡社の活動に賛同し『社会及国家』を定期購読する者は、社友として研究会の参加や雑誌への寄稿が認められていた。社友のなかで最も著名なのは、作家の谷崎潤一郎であろう。谷崎は一匡社の創立メンバーと同じく1908（明治41）年に第一高等学校を卒業して東京帝国大学国文科へ進んでおり、一高では津島、藤井、君島と同じ寮に暮らし、また岸や杉田とともに文芸部委員を務めていた。社員へ勧誘しようという意見もあったようだが、谷崎は「既に文名が揚っているし、敢えて一匡社同人たることを誇りとせぬだろう」と考えた岸が「面白半分に反対し」、最終的には社友となったそう<sup>(5)</sup>だ。谷崎は社友として、随筆「帳中鬼語」（4巻6号・1915. 6、5巻1号・1915. 7、5巻3号・1915. 9）や、芥川龍之介との共訳「クラリモンド」（71～73号・1919. 10～12）などを寄稿している<sup>(6)</sup>。なお、谷崎の紹介であろうか、71号・74～78号（1919. 10・1920. 2・1920. 5～9）には佐藤春夫が翻訳「人間悲劇」を掲載している。

社友には、第2代経団連会長となった石坂泰三（明治44年法科卒）、東京帝国大学病理学教授の長与又郎、後の日本銀行総裁である新木英吉（大正5年法科卒）、日本共産党委員長として「転向声明」を発する佐野学（大正8年法科卒）、日本画家の長野草風<sup>(7)</sup>らが名を連ね、創刊六年後の1919年には社員50名、社友400名に至ったという<sup>(8)</sup>。ただし、社員の細貝正邦が「一匡社の社員の大多数が官吏であり、資本家の走狗である月給取である」ため、「自分でも、不甲斐なく思ひながらも、大ビラに口にされぬことを、一匡社の名によつて、その溜飲を下げる事が出来れば、何程か幸いでないとはせぬ<sup>(9)</sup>」と述べているように、誌面ではイニシャルや筆名が多用されており、著者が判別できない著作も多い。

## 二 『社会及国家』の展開と影響

前述のように、『社会及国家』を中心に論じた研究は少なく、管見では今井清一「関口泰の政治評論（上）」<sup>(10)</sup>を確認したのみである。関口泰は1910（明治43）年に一高を、1914（大正3）年に東京帝国大学法科を卒業し同年一匡社に入社、社員のなかでも長期にわたり多くの記事を掲載した人物である。今井は『社会及国家』における関口泰の執筆活動を丹念に追ひ、関口の本職である朝日新聞論説委員としての著作と照らし合わせながらその主張内容について考察している。この論では、1923年3月の『社会及国家特別号』「如何にして議会を改革すべきか」での主張の一部

が議会で成立するなど、一匡社の研究活動は「それなりの意義」があったとしている。

200号（1932. 11）記念の折に、吉松滋が「一般俗衆には受けなかつたにしても、我国の指導者階級に絶えず効果的な影響を与えて来たことは我が「社会及国家」のひそかに誇りとしてゐる處である<sup>(11)</sup>」と述べているのも、このような成果を示しているのだろう。なお、雑誌の発行部数は明らかになっていないが、社員たちが繰り返し「売らんとする雑誌に非ず。其の証拠は實際売れ高の大ならざるにても明か也<sup>(12)</sup>」「財政的犠牲の多いにも拘らず、その発行部数の増加を計り得ないことの為に、幾度か是れが廃刊について総会の議題に上つた<sup>(13)</sup>」と語るように、決して広範に流布された雑誌ではなかったようだ。また、社員たちの年齢が上がるにつれて、月一回と定められた研究会は開催頻度が落ち、原稿の集まりも悪くなっていったようである。1927年から編集を担った瀬名貞利（大正10年一高、15年理学部卒）は、最終号の「編集後記」において「此雑誌の編集位傍目で見ても呑気さうで実は氣疲れがして一文にもならぬ仕事はあるまい。元々営利を度外視した雑誌だから儲かる筈はないが、原稿が仲々集らぬ癖に質が悪いとどんどん没書にするのだから仲々厚いものが出来ない。」<sup>(14)</sup>と嘆いている。一方で、これまで政治・経済・国際問題に関する主張が大半を占めていた中で、機械工学者の辻二郎（大正8年一高、12年工学部卒）、西洋音楽家の中島六郎、農民運動家で翻訳家の堀井梁歩（一高中退）らの参加により、多様なジャンルへ広がりを見せるのもこの頃である。

1930年代に入ると、前出の今井氏が「非常時」の重圧下に言論弾圧が強化されるなかで、『社会及国家』は同人雑誌の利点を生かして「時の話題」欄で活発な時評活動を展開したと評しているように、毎号巻頭に「時の話題」が掲載された。中心を担ったのは関口、小澤正元、尾崎秀実（大正11年一高、14年法学部卒）という朝日新聞に所属する記者たちであり、編集を担った小澤を筆頭にそれぞれ瀬（関口）、一城・龍（小澤）、実（尾崎）の署名を用いてほぼ毎月のように時評を執筆している。なお、1938年10月にいわゆる「ゾルゲ事件」<sup>(15)</sup>で逮捕されることとなる尾崎は、「白川次郎」の筆名でも翻訳や書評を掲載している。

しかしながら、262号（1938. 1）を最後に「時の話題」欄は終了し、あわせて政治・経済など社会に対する主張も息をひそめた。代わって雑誌の中心となったのは芸術論、紀行文、随筆である。編集は小澤から美術評論家の井上昇三へ引き継がれ、文芸評論家である孝橋謙二の俳句論、江守名彦（奈比古）の茶室論などが目を引くようになる。

『社会及国家』は、言論統制や出版統制の強化にともない297号（1941. 4）をもって廃刊となる。目標であった300号を目前にした廃刊であり、最終号の編集後記

でも「本誌の休刊は発展的休息」と復刊への意欲を覗かせているが、残念ながら雑誌が再開されることはなかった。なお、一匡社は『社会及国家』の終刊後も活動<sup>(16)</sup>を続け、定期的な会合は戦後も長く続いたそうである。

## おわりに 東邦大学所蔵『社会及国家』について

『社会及国家』は、完全な形で所蔵する機関が知られておらず、そのため、その全体像や役割が十分明らかにされてきていない。だが、東邦大学では、ほぼ完全な形でこの雑誌が保管されていることが分かり、その公開を始めている。ここでは、その東邦大学が所蔵するコレクションについて触れておきたい。

本著者は、職員として勤務する東邦大学の創立者・額田晋が一匡社の創設社員であったことから、『社会及国家』の存在を知った。最初に述べたように、額田は創刊時には自らの居所を、さらにその後は経営していた神田の病院を社の所在地として提供するなど創設当初から深く運営にかかわっていた。『社会及国家』は、彼が晩年を過ごした千葉市稲毛区の額田医学生物学研究所に長く保管されていたが、2011年、東邦大学に創立者および大学史に関する資料を管理する額田記念東邦大学資料室が設置されたことを受け、額田家のご厚意によりほぼ完全に近い形で大学に寄贈されたのである。額田は生前、周囲に対し「この雑誌は貴重なものだから、きちんと引き継いでほしい」と念を押したようで、その言葉通り、彼が1964年に没した後も歴代所長によって研究所の所長室に大切に保管されていた。

担当の一人として受贈手続きに関わるなかで、まずは素朴にその執筆陣の顔触れに驚嘆した。また、東邦大学という限られた面から見ても、社員には額田をはじめ、東龍太郎（第4代学長）、杉本良（戦前の一時期、帝国女子医学専門学校（医学部の前身）にて教鞭をとる）が、社友には高木逸雄（第3代学長・理事長）が名を連ね、また戦後には関口鯉吉（関口泰の義理の叔父）が帝国女子理学専門学校（理学部の前身）の校長を務めるなど、「一匡社」という私的なネットワークが、その枠を越えて実社会に広がって行った可能性が感じられた。折しも東邦大学は2015年に創立90周年を迎え、記念事業として創立者である額田豊・晋の伝記がまとめられたが、額田の思想的背景の一つとして一匡社での活動が挙げられていることも、この総目次作成の動機となった<sup>(18)</sup>。

寄贈された『社会及国家』は東京都大田区の東邦大学医学メディアセンター（図書館）に配架されており、入館資格があれば誰でも閲覧が可能である。本総目次の作成も多くをこの東邦大学所蔵分に依った。かつて「青年ノ志気ヲ鼓舞セム」として天下一匡のために集った青年たちの雑誌が、現在の青年たちの手に届く場にまとまった形で置かれたことを喜ばしく思っている。関係者各位に感謝するとともに、



総目次とあわせてこの『社会及国家』が多くの人目に触れ、新たな評価が付されることを期待したい。

## 一匡社 主要社員略歴

### 【創設社員】

津島壽一（1887-1967）明治45年法科卒。大蔵省に入省。日本銀行副総裁、北支那開発総裁等を経て、終戦前後の大蔵大臣を務めた。筆名は瀬戸方堂、芝田平三郎、楠野生など。

君島一郎（1887-1975）明治45年法科卒。日本銀行に入行。朝鮮銀行副総裁を務め、戦後は公職追放となった。日本野球史の研究により野球殿堂入りする。筆名は泉精太郎、鰐溪生、溪生、瀧生など。

藤井啓之助（1888-1959）明治45年法科卒。外務省に入省。外交官としてアメリカ、イギリス、ドイツ等へ赴任し、チェコスロバキア公使を務めた。

岸巖（1886-1945）大正2年法科卒。東京日日新聞に入社。銀行家に転じ、朝鮮銀行本店支配人、満州興業銀行東京事務所長を務める。筆名は於菟生。

宮澤源吉（1886- 不明）明治45年法科卒。日本勧業銀行に入社。台北支店長を経て理事となる。公認会計士。

遠藤始郎（不明）大正3年法科卒。松田銀行（長崎市の十八銀行のウラジオストック支店）に入行。

大村正夫（1887-1943）大正2年医科卒。東京帝国大学医科大学の青山胤通内科に入局。日本橋に呼吸器内科を開業する。陶芸に造詣が深く、『設楽伊賀』の著書がある。

額田晋（1886-1964）大正2年医科卒。青山胤通内科に入局。帝国女子医学専門学校（現東邦大学）を創設。

### 【主要執筆者】

小林俊三（1888-1982）明治43年一高、大正3年法科卒。最高裁判所判事から弁護士。1919年から1940年まで、主張、時評、随筆、書評、和歌などを幅広くコンスタントに掲載する。

細貝正邦（1886-1946）明治44年法科卒。高校は第四高等学校。鉄道院から朝鮮銀行へ転じ、その後、東洋生命保険株式会社へ。朝鮮銀行東京支店時代の同僚には円地をはじめ大石武、有川治助など『社会及国家』の寄稿者が多数いる。1920年7月に開業した「株式会社一匡印刷所」の設立や、社員・社友による別荘群「一匡邑」の開設に尽力した。

関口泰（1889-1956）明治43年一高、大正3年法科卒。台湾総督府から転じて大阪朝日新聞、東京朝日新聞の論説委員として活躍した。横浜市立大学初代学長。筆名は瀬名黙太郎、黙など。判明している限りでは最多の280本を寄稿した。

円地与四松（1895-1972）大正6年一高、9年法科卒。朝鮮銀行東京支店から東京日日新聞記者に転じる。本誌休刊中に「一匡社社報」発行に尽力し、復刊後は編集を担った。妻は作家の円地文子。

瀬名貞利（不明）大正10年一高、15年理学部卒。専門は数学だが音楽に造詣が深く、音楽評を多数執筆している。円地の後を受け、1927年から編集を担当し、163号（1929.10）ではまだ無名であった中原中也の詩を掲載した。

堀井梁歩（1887-1938）一高中退。「野人ソロー伝」を連載し、社内外から好評を得た。一時期編集も担当する。没後の272号（1938.12）には追悼文が掲載されている。筆名は秋山透、神宮普安、町野山男など。

小澤正元（1899-1988）朝日新聞記者。1932年から1936年まで編集を担当、時評を中心に執筆した。筆名は一城龍彦、一城、龍など。

## 『社会及国家』 総目次

今回作成した総目次は、雑誌巻頭に掲載されている目次を基に採取し、不明な項目については本文記事にて補っている。特に執筆者については、目次の記載を優先し、本文署名や本誌に掲載された各年の「総目次」と異同がある際は備考を（）で記している。著名な雅号や筆名も可能な限り補足したが、寡聞にして取りこぼしているものも多いことであろう。ご教授いただければ幸いである。

なお、総目次は全体で約4500タイトルに及ぶことから、本稿ではごく初期の目次を提示するにとどめ、全体はリテラシー研究会サイト（<http://www.f.waseda.jp/a-wada/literacy/>）に掲載するものとする。あわせて参照いただきたい。

- （1）国会図書館所蔵分はデジタルライブラリーに収録されているが、それでも100冊以上が欠号となっている
- （2）君島一郎『朶寮一番室 谷崎潤一郎と一高寮友たちと』（時事通信社、1967）。なお、同様の創立経緯が君島一郎「額田晋と一匡社」（世界観研究会編『額田晋』1972.9）にも書かれている。一匡の由来となったのは、『論語』憲問第十四の「管仲相桓公。覇諸侯。一匡天下。民到于今受其賜。一子曰く、管仲桓公を相けて、諸侯に覇たらしめ、天下を一匡す。民今に到るまで其の賜を受く一」。
- （3）研究会のテーマはそれぞれ「日米関係」と「学制改革問題」であり、その内容はさっそく創刊号の「主張及研究」欄で公表されている。
- （4）泉精太郎「編集室より」（3巻3号・1914.9）

- (5) 辰野隆『谷崎潤一郎』（イヴニング・スター社、1947.10）。一方で君島は、谷崎がすでに第二次『新思潮』で世に出ていたことが『社会及国家』創刊の刺激になったのではないかと述べている（注2に同じ）。
- (6) 『社会及国家』に掲載された谷崎の著作については、細江光「谷崎潤一郎全集逸文紹介2」（『甲南女子大学研究紀要』27号・1991.3）で紹介されている。なお、75～77号（1920.5～1920.7）に掲載された「投書規定」では、小説の選者として谷崎の名が挙がっている。
- (7) 「社費領収広告」（59号・1918.9）の社友欄より。
- (8) 「一匡社の概況」（69号・1919.7）。なお、名簿は大正8年8月現在分のみ確認できおり、そこでは社員68名の連絡先と氏名が掲載されている（70号・1919.8）。君島によると、最終的な登録社員は104名（注2に同じ）。
- (9) 細貝正邦「淡き夢」（101号・1922.10）
- (10) 今井清一「関口泰の政治評論（上）」（横浜市立大学学術研究会『横浜市立大学論叢社会科学系列』23（3・4）・1972.10）。論文には「『社会及国家』所載関口泰論文・時評・随筆一覧〔1～297号（大正2～昭和16年）含所蔵館一覧〕」が付されている。
- (11) 吉松滋「『社会及国家』が第二百号になるまで」（200号記念号・1932.11）。内容から、記念号の編集を担当した円地与四松か。
- (12) 杉田直樹「北米より（一）」（6巻8号・1916.8）
- (13) 注10に同じ
- (14) 瀬名生「編集後記」（297号・1941.4）。瀬名貞利のこと。
- (15) 尾崎の著作については『尾崎秀実著作集』第1・3巻（勁草書房、1977.3・11）に収録されている。解題は関口の政治評論を論じた今井清一。
- (16) 杉本良「額田晋博士の追憶」（世界観研究会編『額田晋』1972.9）によると、創設から60年近く、1980年頃まで継続されたようだ。
- (17) 額田医学生物学研究所は1939年に額田晋が結核研究のために設立した研究所兼付属病院である。現在の理事長・額田均氏は額田晋の孫にあたる。受贈にあたっては、額田均氏・常務理事の守屋栄氏にお世話になったほか、東邦大学医学メディアセンターの元職員で司書の押田いく子氏に仲介のご尽力をいただいた。
- (18) 炭山嘉伸『額田豊・晋の生涯 東邦大学のルーツをたどる』（中央公論事業出版、2015.6）。筆者は東邦大学理事長。額田豊は晋の実兄。

巻	号	発行日	コーナー名	タイトル	著者肩書	著者名	始頁	終頁
1	1	19130910		宣言及社則			1	1
1	1	19130910		発刊之辞		一匡社同人	2	8
1	1	19130910	主張及研究	日米問題解決三十八策を論ず	法学士	瀬戸方堂(津島寿一)	1	44
1	1	19130910	主張及研究	学制改革論(緒論)	医学士	NOS生	45	58
1	1	19130910	主張及研究	幼者問題を論ず	法学士	金森徳次郎	58	72
1	1	19130910	主張及研究	現代青年の権威	法学士	日東学人	72	82
1	1	19130910	主張及研究	卒業生採用の標準に就て	法学士	泉生(君島一郎)	82	97
1	1	19130910	主張及研究	福来博士の近著「透視と念写」を読む ／千里眼問題将来の研究方法来に就て	医学士	杉田直樹	97	112



巻	号	発行日	コーナー名	タイトル	著者肩書	著者名	始頁	終頁
1	1	19130910	主張及研究	電車速力問題	法学士	荒川生	112	117
1	1	19130910	主張及研究	政友会の将来(一)	法科大学学生	岸巖	117	129
1	1	19130910	時事及評論	支那第二動乱と日本の地位		T生	130	131
1	1	19130910	時事及評論	軍備問題及其の財源／特に独仏問題		T生	131	133
1	1	19130910	時事及評論	巴爾幹戦争に要したる経費			133	134
1	1	19130910	時事及評論	欧洲協調の權威		T、生	134	135
1	1	19130910	時事及評論	欧洲各国の中央銀行に於ける金銀残高		T、生	135	135
1	1	19130910	時事及評論	大学教授の内職禁止を評す		A生	135	138
1	1	19130910	時事及評論	大学教授の淘汰を評す		B生	138	139
1	1	19130910	時事及評論	兇漢荒内鎌太郎犯罪の心理		N生	139	143
1	1	19130910	社報	数件			144	144
1	2	19131005	主張及研究	結核予防問題の趨勢	医学士	島津直	1	34
1	2	19131005	主張及研究	公人の襟度を論じて国民の自覚を促す	法学士	行森昇	35	46
1	2	19131005	主張及研究	斗六精糖株券偽造問題	法学士	山川照吉	47	56
1	2	19131005	主張及研究	労働問題平和的解決手段を論ず(一)	法学士	金森徳次郎・訳	57	68
1	2	19131005	主張及研究	社会問題としての生活難の原因を論じ之れに対する方策に及ぶ	法学士	杉本鉄書(本文著者:松本鉄書)(松本藤四郎)	68	94
1	2	19131005	主張及研究	学制改革論(承前)	医学士	NOS生	94	111
1	2	19131005	時事及評論	英国に於ける排日の論調と英米同盟説並に独米同盟説		瀬	113	115
1	2	19131005	時事及評論	新聞紙の国際平和攪乱に対する法律的制裁		瀬	115	117
1	2	19131005	時事及評論	倫敦大学の改革問題		瀬	117	119
1	2	19131005	時事及評論	仏国に於ける大商店の盛況／資本集中問題		瀬	119	120
1	2	19131005	時事及評論	国民需要力の増加について		瀬	120	123
1	2	19131005	時事及評論	支那に於ける帝国軍人の態度		横	123	125
1	2	19131005	時事及評論	刺客難		泉(君島一郎)	125	127
1	2	19131005	時事及評論	群集及日比谷公園		泉(君島一郎)	127	129
1	2	19131005	時事及評論	東京市下水問題		学田生	129	131
1	2	19131005	時事及評論	古賀康造氏公判事件		決生	131	132
1	2	19131005	時事及評論	鼠群人を飢餓に陥る		決生	132	133
1	3	19131101	主張及研究	精神病者の保護問題	医学士	杉田直樹	1	38
1	3	19131101	主張及研究	英独の不和及競争／思想上、経済上及軍事上より見たる英独問題	法学士	津島寿一	38	58
1	3	19131101	主張及研究	現代独乙に於ける五大矛盾	法学士	瀬戸方堂(津島寿一)	58	69
1	3	19131101	主張及研究	閩門海峡縦横の整理を論ず	法学士	島原道次郎	69	86
1	3	19131101	主張及研究	文部省所管美術展覧会を観る	法学士	金森徳次郎	86	108
1	3	19131101	時事及評論	桂公没後の諸政党		岸	110	113
1	3	19131101	時事及評論	桂公の薨去と政界		宵	113	115
1	3	19131101	時事及評論	医者より見たる公爵桂太郎氏解剖の結果		学田生	115	116
1	3	19131101	時事及評論	英海相の英独海軍の妥協提議		瀬生	116	119
1	3	19131101	時事及評論	加州問題と日米貿易		瀬生	119	120
1	3	19131101	時事及評論	独乙に於ける各政党の消長		瀬生	120	120
1	3	19131101	時事及評論	太閤誌上「医学博士論」を読む		学田生	120	124
1	3	19131101	時事及評論	露国の人口に就て			124	126
1	3	19131101	時事及評論	千九百二十二年中蘇士運河通貨船舶及噸数		瀬生	126	127
1	3	19131101	時事及評論	本年末に於ける仏国の兵力			127	128
1	3	19131101	時事及評論	独乙軍備拡張臨時資産税法の内容		瀬生	128	129
1	3	19131101	時事及評論	公園の利用		宵	129	132
1	3	19131101	時事及評論	東京帝国大学総長山川健次郎氏の演説			132	135
1	3	19131101	時事及評論	早稲田大学創立三十年記念祭		泉(君島一郎)	135	138

巻	号	発行日	コーナー名	タイトル	著者肩書	著者名	始頁	終頁
1	3	19131101	時事及評論	私学も官学も		泉(君島一郎)	138	141
1	3	19131101	時事及評論	次官連の政友会入党		泉(君島一郎)	141	145
1	4	19131201	主張及研究	南満州の米作	法学士	木下道雄	1	13
1	4	19131201	主張及研究	不良少年を論ず／幼者問題(二)	法学士	金森徳次郎	14	34
1	4	19131201	主張及研究	人口の都会集注	法学士	照雨巷人(行森昇)	34	62
1	4	19131201	主張及研究	墨西哥政変管見	法学士	藤井啓之助	62	68
1	4	19131201	主張及研究	生活難と物価騰貴／松本学士に相談するの私信	法学士	泉精太郎(君島一郎)	68	95
1	4	19131201	主張及研究	我國民の租税負担力如何	法学士	瀬戸方堂(津島寿一)	95	101
1	4	19131201	縦横言	後藤男何処に行くぞ			102	109
1	4	19131201	縦横言	宗教を如何に遇すべきか／研究会后自由会話の抄録			110	118
1	4	19131201	時事及評論	議会に於ける外交問題		宵	120	121
1	4	19131201	時事及評論	医育非統一論者あり／医学専門学校昇格問題		X生	121	124
1	4	19131201	時事及評論	東北の飢饉		エス生	124	125
1	4	19131201	時事及評論	癌研究会の発展		X生	125	126
1	4	19131201	時事及評論	天長節奉祝方法に就て		宵	126	128
1	4	19131201	時事及評論	横浜に於けるバスト病		エス生	128	129
1	4	19131201	時事及評論	自治団体の紛擾		宵	129	130
1	4	19131201	時事及評論	外相邸夜会と森某		エス生	130	131
1	4	19131201	時事及評論	野口英世博士の名誉		エス生	131	132
1	4	19131201	時事及評論	米国出入移民数と其の包容力		瀬生	132	133
2	1	19140101	主張及研究	独乙に於ける反動的専制政治の真相	法学士	津島寿一	1	14
2	1	19140101	主張及研究	名刀正宗論	医学士	額田晋	14	16
2	1	19140101	主張及研究	大阪人の思想及氣風を論ず	法学士	沖鹽新三郎	16	29
2	1	19140101	主張及研究	企業家として仏国	法学士	津島寿一	29	36
2	1	19140101	主張及研究	俠客要否論	法学士	照雨巷人(行森昇)	37	49
2	1	19140101	主張及研究	新春漫言	法学士	藤井啓之助	50	52
2	1	19140101	主張及研究	政友倶楽部亦楽会の合同	法学士	果堂野人	52	57
2	1	19140101	主張及研究	法制及慣習による時間の減殺	法学士	金森徳次郎	57	67
2	1	19140101	縦横言	商科大学問題	法学士	泉精太郎(君島一郎)	68	82
2	1	19140101	縦横言	牧野教授の歌集をよみて	法学士	川波友治	82	87
2	1	19140101	縦横言	貧民を如何に処分す可きか／特種部落問題	医学士	山川三郎	87	98
2	1	19140101	時事及評論	我國の國際的信用の現状如何		瀬生	100	101
2	1	19140101	時事及評論	チェンバーレーン著「非律賓問題」を紹介す		瀬生	101	102
2	1	19140101	時事及評論	人種改良と婚姻の制度		瀬生	102	102
2	1	19140101	時事及評論	露国学士中の自殺者研究		瀬生	102	103
2	1	19140101	時事及評論	化学研究所の設立		エス生	103	104
2	1	19140101	時事及評論	東京市のバスト予防		エス生	104	105
2	1	19140101	時事及評論	議員服装問題		エス生	105	106
2	1	19140101	時事及評論	満鉄總裁更任		宵	106	109
2	1	19140101	時事及評論	嗚呼斯の五百万人		S	109	110
2	2	19140204	主張及研究	大学制度の改革に関する意見	社友	無名会寄稿	1	54
2	2	19140204	主張及研究	失職者を論ず	法学士	津島寿一	55	78
2	2	19140204	主張及研究	バストの世界漫遊	医学士	島津直	78	87
2	2	19140204	主張及研究	武断的国家としての独逸	法学士	瀬戸方堂(津島寿一)	88	102
2	2	19140204	主張及研究	保証の爲に爲す供託を論ず	法学士	金森徳次郎	102	115
2	2	19140204	時事及評論	同盟罷業家としての京大教授		決生	117	121
2	2	19140204	時事及評論	故徳川公爵の葬儀と山川総長		S	121	122
2	2	19140204	時事及評論	愛鷹丸の沈没と科学の力		S	122	122
2	2	19140204	時事及評論	松田法相の授爵		S	123	127
2	2	19140204	時事及評論	火山噴火の活動写真		S	127	127

巻	号	発行日	コーナー名	タイトル	著者肩書	著者名	始頁	終頁
2	2	19140204	時事及評論	小選挙区制度と党略		瀬生	127	129
2	2	19140204	時事及評論	相撲一日の見物		S	130	130
2	2	19140204	時事及評論	婦人参政権問題と党略		瀬生	131	132
2	2	19140204	時事及評論	日本及日米関係／ブレーケスリー著		瀬	132	133
2	2	19140204	時事及評論	露国と戦争		瀬	133	134
2	2	19140204	時事及評論	永遠の平和の理想と戦争の理想		瀬	134	136
2	2	19140204	時事及評論	婦人の不安／マルチン著		瀬	136	137
2	2	19140204	時事及評論	国民性と自治法案		瀬生	137	137
2	2	19140204	時事及評論	ビスマルク社会政策／アンニー、ア ッシスレー氏著		瀬	137	138
2	2	19140204	時事及評論	『政治叢書』完成す		瀬生	139	143
2	3	19140301	主張及研究	社会制度としての休暇に関する管見	法学士	金森徳次郎	1	19
2	3	19140301	主張及研究	世界の石炭界に於ける我国の地位	法学士	伊澤道雄	19	33
2	3	19140301	主張及研究	与論と院議	法学士	行森黄堂(行森昇)	33	54
2	3	19140301	主張及研究	電気と運送	法学士	高橋正忠	55	67
2	3	19140301	主張及研究	失職者を論ず	法学士	津島寿一	67	77
2	3	19140301	主張及研究	軍備拡張問題の解決方策	法学士	瀬戸方堂(津島寿一)	78	85
2	3	19140301	縦横言	内閣危機の世界的流行	法学士	方堂学人(津島寿一)	86	96
2	3	19140301	縦横言	政論流行と群衆騒動	法学士	泉精太郎(君島一郎)	97	101
2	3	19140301	縦横言	太刀山然たる政友会		一匡社同人	102	104
2	3	19140301	縦横言	軍事上の準備乎財政上の準備乎	法学士	方堂学人(津島寿一)	104	111
2	3	19140301	時事及評論	別様の海軍拡張案		泉(君島一郎)	113	115
2	3	19140301	時事及評論	議会に於ける弁論の比喩能力		瀬生	115	118
2	3	19140301	時事及評論	瑞典蟻螂の斧を磨く		瀬	118	119
2	3	19140301	時事及評論	独逸皇帝誕生祭の一日		瀬	119	120
2	3	19140301	時事及評論	仏国の財政窮状と余裕			120	122
2	3	19140301	時事及評論	亦々官民の衝突か／ストラスブルグ の一事変		瀬	122	122
2	3	19140301	時事及評論	治外法権の侵犯乎		瀬	122	123
2	3	19140301	時事及評論	巴里に於ける英国先帝エドワード七 世の銅像除幕式		瀬	123	123
2	3	19140301	時事及評論	仏国議会総選挙期迫る／バルトウ氏 の活躍		瀬	123	124
2	3	19140301	時事及評論	ナポレオン、ルイ誕生と其の住居権		瀬	124	124
2	3	19140301	時事及評論	巴拿摩運河通貨料問題解決乎		瀬生	124	126
2	3	19140301	時事及評論	用意周到なる巴里市		瀬	126	127
2	3	19140301	時事及評論	独逸の資産力の強弱		瀬	127	129
2	3	19140301	時事及評論	仏国にも亦減税運動		瀬	129	130
2	3	19140301	時事及評論	戦争と戦死		瀬	130	130
2	3	19140301	時事及評論	紐育と失業者		瀬	130	130
2	3	19140301		時事日誌 社報			130	134
2	4	19140401	社説	両院の政戦		一匡社同人	1	10
2	4	19140401	主張及研究	百貨商税を論ず	法学士	太田庄吉(太田正孝)	11	24
2	4	19140401	主張及研究	支那国地租改正の急務	法学士	逸見晋	25	33
2	4	19140401	主張及研究	独逸の科学主義	医学士	島津直	34	39
2	4	19140401	主張及研究	南阿の人種問題	法学士	藤井啓之助	40	49
2	4	19140401	主張及研究	社会と国家との区別	独逸	ブルンチュリー	50	52
2	4	19140401	縦横言	辞職せし村田翁と登院停止せられし 蔵原君		一匡社同人	53	57
2	4	19140401	縦横言	電車哲語	法学士	決々生	57	64
2	4	19140401	縦横言	金故の積極方針乎	法学士	芝田平三郎(津島壽一)	64	73
2	4	19140401	縦横言	妥協政治欠くべからず	法学士	方堂学人(津島寿一)	73	81
2	4	19140401	縦横言	英米確執ベントン事件の真相／墨西哥 国の叛将ヴィラ英人ベントンを殺害す		一匡社同人	81	88
2	4	19140401	時事及評論	会期延長の必要		瀬	90	92

巻	号	発行日	コーナー名	タイトル	著者肩書	著者名	始頁	終頁
2	4	19140401	時事及評論	減税問題と地方財政		決生	93	94
2	4	19140401	時事及評論	慣習法の効力と成分法並に刑法の一部廃止		決生	95	97
2	4	19140401	時事及評論	政治と財政との不溶性		瀬	97	99
2	4	19140401	時事及評論	露国に於ける飲酒問題		瀬	100	100
2	4	19140401	時事及評論	露国に於ける妻の権利拡張		瀬	100	111
2	4	19140401	時事及評論	露国の対独軍備拡張		瀬	111	102
2	4	19140401	時事及評論	一葉落ちて天下の秋を知る		瀬	102	104
2	4	19140401	時事及評論	英国陸軍飛行機費二百十六万円		瀬	104	104
2	4	19140401	時事及評論	英帝国の人口調査の結果に就て		瀬	104	105
2	4	19140401	時事及評論	婦人参政権者貴族を殴打す		瀬	105	106
2	4	19140401	時事及評論	仏国政府信任の可決		瀬	106	106
2	4	19140401	時事及評論	仏国に於ける婦人参政運動		瀬	107	107
2	4	19140401	時事及評論	仏国蔵相カイヨー氏夫人とリヒテル氏		瀬	107	110
2	4	19140401	時事及評論	普魯西に於ける王室劇の禁止		瀬	110	111
2	4	19140401	時事及評論	独乙海軍に於ける石油燃料問題		瀬	111	112
2	4	19140401	時事及評論	世界経済研究院の成立		瀬	112	113
2	4	19140401	時事及評論	独探仏国内に捕はる		瀬	113	113
2	4	19140401	時事及評論	ババリア国「ラヂウム」を購入す		瀬	113	113
2	4	19140401	時事及評論	伊太利に於ける自由貿易熱			114	114
2	4	19140401	時事及評論	伊太利に於ける弁護士の同盟罷業		瀬	114	115
2	4	19140401	時事及評論	葡萄牙内閣の成立及其の顔觸		瀬	115	116
2	4	19140401	時事及評論	那威憲法発布の百年祭		瀬	116	116
2	4	19140401	時事及評論	加奈陀議会に於ける保守党並に進歩党の対戦		瀬	117	119
2	4	19140401	時事及評論	愈々太平洋時代の出現近し		瀬	119	119
2	4	19140401	時事及評論	孔子崇拜と支那国教問題		瀬	120	121
2	4	19140401	時事及評論	世界造船の進歩		瀬	121	122
2	4	19140401		内外時事日誌 社報 通信			122	126
2	4	19140401	付録	夫人参政権問題	法学士	津島寿一	1	18
2	5	19140501	主張及研究	住居問題及園市園郊	法学士	金森徳次郎	1	18
2	5	19140501	主張及研究	政治教育寸観／人民読本を読む	法学士	黄堂野人	19	35
2	5	19140501	主張及研究	隈伯の復活	法学士	岸巖	36	47
2	5	19140501	主張及研究	一円銀行券の話／(付)銀貨改鑄の件	法学士	泉精太郎(君島一郎)	48	59
2	5	19140501	国家時言	山本内閣の死所	法学士	山川照吉	61	64
2	5	19140501	国家時言	元老の責任	法学士	照雨巷人(行森昇)	64	67
2	5	19140501	国家時言	清浦内閣の印象	法学士	吉井勇(本文著者:吉井猛)	67	70
2	5	19140501	世界時言	仏国蔵相 カイヨー氏夫人の謀殺事件と仏国の政界	法学士	芝田平三郎(津島壽一)	71	84
2	5	19140501	世界時言	最近に於ける伊太利総選挙及政党について	法学士	原田務	84	91
2	5	19140501	世界時言	独逸の経済的發展	法学士	XYZ生	91	94
2	5	19140501	海外時事評論	独逸皇太子の阿弗利加旅行中止／「カイゼル」の反対に因る		S生	95	96
2	5	19140501	海外時事評論	独逸外務省通商局長の隠退		H生	96	96
2	5	19140501	海外時事評論	独逸の海上覇権に対する野心		I生	96	97
2	5	19140501	海外時事評論	独逸外交官に対する批難		T生	97	98
2	5	19140501	海外時事評論	活動写真と教育の關係		H生	98	99
2	5	19140501	海外時事評論	英帝国国防委員會の開催		R生	99	100
2	5	19140501	海外時事評論	劍橋、牛津両大学の短艇競漕／劍橋大学の勝利		H生	100	100
2	5	19140501	海外時事評論	仏国蔵相カイヨー氏の選挙運動方法		仲生	100	101
2	5	19140501	海外時事評論	仏国と巴奈馬博覧会		S生	101	101
2	5	19140501	海外時事評論	仏国下院議長の活動写真に対する見解		A生	101	102

巻	号	発行日	コーナー名	タイトル	著者肩書	著者名	始頁	終頁
2	5	19140501	海外時事評論	維納に於ける学生の暴行		芝生	102	103
2	5	19140501	海外時事評論	奧利地に於ける露国軍事探偵		I 生	103	103
2	5	19140501	海外時事評論	聖得彼斯堡大学教授の処刑		徳生	103	103
2	5	19140501	海外時事評論	露国の乗馬移出の禁止		I 生	103	104
2	5	19140501	海外時事評論	西班牙議会議員選挙候補者発表について		M生	104	104
2	5	19140501	海外時事評論	ジブラルタル海峡の横断／西班牙将校名誉を博す		S 生	104	105
2	5	19140501	海外時事評論	ウトルロー戦場の保存問題		H生	105	106
2	5	19140501	海外時事評論	瑞典内閣と国防		A 生	106	106
2	5	19140501	海外時事評論	米国小学校生徒の自治運動		文生	106	107
2	5	19140501	海外時事評論	米国国防省顧問ムーア博士の辞職		T生	107	108
2	5	19140501	海外時事評論	加奈陀の移民		M生	108	108
2	5	19140501	海外時事評論	印度の財政と通貨問題		S 生	108	109
2	5	19140501	海外時事評論	印度財政の鞏固			109	109
2	5	19140501	海外時事評論	害虫内閣を斃す		A 生	110	110
2	5	19140501	海外時事評論	世界各国の海軍力			110	111
2	5	19140501	海外時事評論	類々たる間諜問題		T 生	111	112
2	5	19140501		内外時事日誌 社報等			112	114
2	5	19140501	付録	婦人参政権問題	法学士	津島寿一	17	56
2	6	19140613	主張及研究	独逸国富の激増	法学士	泉精太郎(君島一郎)	1	8
2	6	19140613	主張及研究	都市交通機関の発達と都市の形状	法学士	森川端夫(金森徳次郎)	9	15
2	6	19140613	主張及研究	社会及国家の観念に就て	法学士	津島寿一	16	20
2	6	19140613	主張及研究	少数党論	法学士	岸巖	21	31
2	6	19140613	主張及研究	本邦に於ける齒科医界の趨勢を論ず	医学士	長尾優	32	48
2	6	19140613	縦横言	老閥打破	法学士	於菟平(岸巖)	49	54
2	6	19140613	縦横言	伯刺西爾国財界の窮状と日本	法学士	泉精太郎(君島一郎)	54	60
2	6	19140613	縦横言	政治家の言責と経綸と	法学士	楚鳩山人	60	64
2	6	19140613	縦横言	半面録	法学士	半面子	65	73
2	6	19140613	時事及評論	露国と在外正貨		泉(君島一郎)	74	74
2	6	19140613	時事及評論	露国の穀物収穫		泉(君島一郎)	74	74
2	6	19140613	時事及評論	「アルバニア」王国の擾乱			75	76
2	6	19140613	時事及評論	土耳其の新規外積		泉(君島一郎)	76	76
2	6	19140613	時事及評論	倫敦市場第一回半季に於ける資金募集の盛況		泉(君島一郎)	76	81
2	6	19140613	時事及評論	英国農業資金借入委員会設立に関する法律案の概要		泉(君島一郎)	81	82
2	6	19140613	時事及評論	山座公使の死		K 生	82	85
2	6	19140613	時事及評論	英雄僧管長を辞す		K 生	85	85
2	6	19140613	時事及評論	ベスト首府を襲ふ		K 生	85	86
2	6	19140613	付録	故社員島津直君の追憶		一匡社同人(泉精太郎・岸巖・長尾優・藤井啓之助・額田晋・大村正夫)	1	20
3	1	19140908	時論	常磐会滅ぶ		岸巖	1	3
3	1	19140908	時論	議會解散の噂		岸巖	3	5
3	1	19140908	時論	政友会新総裁		岸巖	5	7
3	1	19140908	時論	政友会の組織変更		岸巖	7	8
3	1	19140908	時論	連衡合従の夢		岸巖	8	9
3	1	19140908	時論	防務會議		岸巖	9	11
3	1	19140708	時論	中央政党と地方政治		岸巖	12	13
3	1	19140708	時論	營業税金廃と地租五厘減		決生	13	14
3	1	19140708	主張及研究	白濠州	法学士	楚堂山人	15	23
3	1	19140708	主張及研究	北米合衆国連邦所得税概論(其一)	法学士	泉精太郎(君島一郎)	24	38
3	1	19140708	主張及研究	サッカリンは砂糖の代用品たり得るや	医学士	吉川生	39	49
3	1	19140708	主張及研究	都市交通機関の発達と都市の形状(二)	法学士	森川端夫(金森徳次郎)	50	55



巻	号	発行日	コーナー名	タイトル	著者肩書	著者名	始頁	終頁
3	1	19140708	縦横言	半面録	法学士	半面士	56	63
3	1	19140708	縦横言	塗毒鼓一打		鯉南子	63	66
3	1	19140708	縦横言	電車哲語(二)	法学士	決々生	66	72
3	1	19140708	海外時事評論	英国土地調査委員会第二回報告概要		泉精太郎(君島一郎)	73	76
3	1	19140708	海外時事評論	倫敦市電気廉価供給の新計画		泉精太郎(君島一郎)	76	81
3	1	19140708	海外時事評論	北米合衆国小麦収穫予想／約六億三千万「ブッシュル」(一「ブッシュル」ハ二斗一合余)		泉精太郎(君島一郎)	82	84
3	1	19140708	海外時事評論	南阿アンゴラ及土耳其に於ける独逸の資本		泉精太郎(君島一郎)	84	85
3	1	19140708	海外時事評論	独逸造船業及航路補助金		泉精太郎(君島一郎)	85	87
3	1	19140708		社報			87	88
3	2	19140803	時論	机上時論／ある程度の愛国者		岸巖	1	3
3	2	19140803	時論	机上時論／満鉄正副總裁の更迭		岸巖	3	4
3	2	19140803	時論	机上時論／学制の犠牲		岸巖	5	6
3	2	19140803	時論	机上時論／八代海相に教ゆ		岸巖	6	8
3	2	19140803	時論	机上時論／大隈内閣と同志会		岸巖	8	9
3	2	19140803	時論	机上時論／烏森駅問題		岸巖	9	11
3	2	19140803	主張及研究	北米合衆国連邦所得税概論(承前、完)	法学士	泉精太郎(君島一郎)	12	33
3	2	19140803	主張及研究	軍備学講座の設置を主張す	法学士	小林鉄太郎	34	39
3	2	19140803	主張及研究	文部省の責任を問ひ且相談す／検定済中学校教科書中に多数の誤謬ある事に関して	医学士	額田晋	40	55
3	2	19140803	主張及研究	国際商業と戦争との關係を論ず	法学士	森川端夫(金森徳次郎)	56	69
3	2	19140803	主張及研究	「ラヂウム」は如何なる疾病に対して治療の効ありや	医学士	穂坂興明	70	75
3	2	19140803	縦横言	細君選択論	法学士	宗近三郎(小林鉄太郎)	76	95
3	2	19140803	縦横言	学制改革の要点に関する話	医学士	額田晋	95	103
3	2	19140803	縦横言	数量品質闘争論	法学士	南摩也	103	107
3	2	19140803	海外時事評論	伯林の婦人銀行		泉(君島一郎)	108	108
3	2	19140803	海外時事評論	独仏中央銀行金吸収の原因		泉(君島一郎)	109	110
3	2	19140803	海外時事評論	仏国最近の政変		泉(君島一郎)	110	111
3	2	19140803	海外時事評論	濠洲連邦議会の解散		泉(君島一郎)	111	112
3	2	19140803	海外時事評論	老チエンバーレン氏逝く		泉(君島一郎)	112	114
3	2	19140803		社報及通信			114	114
3	2	19140803		編集余談		於菟	114	115
3	2	19140803	付録	帝国憲法上の論争点(一)	法学士	岸巖	1	21
3	3	19140905	時論	机上時論／戦争心理		岸巖	1	3
3	3	19140905	時論	机上時論／非戦論者なき国		岸巖	3	4
3	3	19140905	時論	机上時論／過大なる期待		岸巖	4	7
3	3	19140905	時論	机上時論／外難と内治問題		岸巖	7	9
3	3	19140905	時論	机上時論／市政倶楽部の紛糾		岸巖	9	10
3	3	19140905	欧州大戦戦乱前史	四十年前の普仏戦争		岸生(岸巖)	11	37
3	3	19140905	欧州大戦戦乱前史	三国同盟と三国協商		澤田生(澤田源一)	37	58
3	3	19140905	欧州大戦戦乱前史	最近に於ける巴爾幹戦争		藤井生(藤井啓之助)	58	78
3	3	19140905	欧州大戦戦乱前史	欧州大乱の原因たる壘塞關係破裂の経過		藤(藤井啓之助)	78	70
3	3	19140905	主張及研究	日本帝国の使命並に運命を論じて日本民族の人口問題に及ぶ	法学士	森川端夫(金森徳次郎)	81	104
3	3	19140905	主張及研究	露西亞の銀行界	法学士	泉精太郎(君島一郎)	105	116
3	3	19140905	縦横言	電車哲語(三)		決生	117	123
3	3	19140905		編集室より		泉精太郎(君島一郎)	124	131

巻	号	発行日	コーナー名	タイトル	著者肩書	著者名	始頁	終頁
3	3	19140905		社報及通信			131	132
3	4	19141005	時論	机上時論／昏惑せる政友会		岸巖	1	3
3	4	19141005	時論	机上時論／三代目カイゼル		岸巖	3	5
3	4	19141005	時論	机上時論／ダムダム弾		岸巖	5	6
3	4	19141005	時論	机上時論／国民的外交		岸巖	6	9
3	4	19141005	主張及研究	玉蜀黍の話	法学士	泉精太郎(君島一郎)	10	23
3	4	19141005	主張及研究	関交戦小論(一)／戦時海上保険と戦時敵国臣民の地位	法学士	森川端夫(金森徳次郎)	24	43
3	4	19141005	縦横言	鉄道の故障	法学士	泉精太郎(君島一郎)	44	51
3	4	19141005	縦横言	医者と薬屋と金持とに告ぐ	医学士	某生	51	55
3	4	19141005		征戦記		伊澤社員(伊澤道雄)	56	63
3	4	19141005		倫敦便り			64	66
3	4	19141005		社報及通信			66	66
3	4	19141005	付録	帝国憲法上の論争点(二)	法学士	岸巖	1	29
3	5	19141108	時論	机上時論／秋酣也		岸巖	1	2
3	5	19141108	時論	机上時論／日本と支那		岸巖	2	4
3	5	19141108	時論	机上時論／国際法の權威		岸巖	4	5
3	5	19141108	時論	机上時論／再び政友会を戒む		岸巖	5	7
3	5	19141108	主張及研究	伝染病研究所問題	医学士	額田晋	8	17
3	5	19141108	主張及研究	欧州交戦国と穀物の供給	法学士	泉精太郎(君島一郎)	18	30
3	5	19141108	縦横言	電車哲語(四)		決生	31	39
3	5	19141108	縦横言	関交戦小論(二)		森川端夫(金森徳次郎)	39	42
3	5	19141108	海外時事評論	独逸の軍税誅求		泉(君島一郎)	43	43
3	5	19141108	海外時事評論	独逸海軍の新勢力		泉(君島一郎)	43	44
3	5	19141108	海外時事評論	独逸帝国銀行の報告		泉(君島一郎)	44	45
3	5	19141108	海外時事評論	露西亞帝国銀行の状況		泉(君島一郎)	45	45
3	5	19141108	海外時事評論	戦争と新聞紙		泉(君島一郎)	45	46
3	5	19141108	海外時事評論	白耳義国立銀行の銀行券と英蘭銀行		泉(君島一郎)	46	46
3	5	19141108	海外時事評論	巴里に於ける外国人義勇兵		泉(君島一郎)	46	47
3	5	19141108	海外時事評論	仏国に在る独逸の間諜		泉(君島一郎)	47	47
3	5	19141108	海外時事評論	仏蘭西の戦時内閣組織		泉(君島一郎)	47	48
3	5	19141108	海外時事評論	英国に於ける国民救助資金会		泉(君島一郎)	48	49
3	5	19141108	海外時事評論	北米合衆国の戦時税		泉(君島一郎)	49	49
3	5	19141108		滯京雜感	法学士	宗近三郎(小林鉄太郎)	50	56
3	5	19141108		平野の端てより		照雨生(行森昇)	56	62
3	5	19141108		英京通信		瀬戸方堂(津島寿一)	62	66
3	5	19141108		征戦記(二)		伊澤社員(伊澤道雄)	66	67
3	5	19141108		社報			67	67
3	6	19141201	時論	机上時論／青島陥落	法学士	岸巖	1	4
3	6	19141201	時論	提灯行列	法学士	岸巖	4	6
3	6	19141201	時論	来るべき議会	法学士	岸巖	6	8
3	6	19141201	時論	政友会の策戦	法学士	岸巖	8	10
3	6	19141201	主張及研究	加奈陀ケベツク州の庶民銀行	法学士	泉精太郎(君島一郎)	11	29
3	6	19141201	主張及研究	前号「伝染病研究所云々」なる論文に就て	医学士	額田晋	30	31
3	6	19141201	縦横言	独逸落ち(一)／開戦当時の独逸国内地の景況	医学士	杉田直樹	32	65
3	6	19141201	縦横言	オイケン、ベルグリンの流行を論ず(一)	法学士	子の舎主人	65	69
3	6	19141201	縦横言	戦後思想変動に対する準備	法学士	関口泰	69	73
3	6	19141201	縦横言	電車哲語(五)		決生	74	78
3	6	19141201	縦横言	伊澤君の留守宅を訪ふの記／個人一人一宗主義	法学士	小林鉄太郎	79	90
3	6	19141201		征戦記(三)		伊澤社員(伊澤道雄)	91	106
3	6	19141201		平野の端てより(二)		照雨生(行森昇)	106	118
3	6	19141201		社報			118	118

巻	号	発行日	コーナー名	タイトル	著者肩書	著者名	始頁	終頁
4	1	19150101	時論	机上時論	法学士	岸巖	1	10
4	1	19150101	主張及研究	欧州に於ける日本出兵論に就て	法学士	泉精太郎(君島一郎)	11	28
4	1	19150101	主張及研究	北米合衆国の綿花業者救済資金	法学士	泉精太郎(君島一郎)	29	38
4	1	19150101	縦横言	独逸落ち(二)開戦当時の独逸国内地の景況	医学士	杉田直樹	39	66
4	1	19150101	縦横言	浴場哲語	法学士	決生	66	73
4	1	19150101		何故	文学士	土敏(徳川義親)	74	78
4	1	19150101		通信及社報			78	79
4	1	19150101		社会及国家に関する一匡社の主張及研究第三巻総目録			1	5
4	2	19150210	時論	机上時論	法学士	岸巖	1	13
4	2	19150210	主張及研究	絵巻物の話		春山武松	14	32
4	2	19150210	主張及研究	独逸と食料品及原料品	法学士	泉精太郎(君島一郎)	33	49
4	2	19150210	縦横言	独逸落ち(三)／開戦当時の独逸国内地景況	医学士	杉田直樹	50	70
4	2	19150210	縦横言	浴場哲語(二)	法学士	決生	70	77
4	2	19150210	縦横言	大石正己君の隠退		泉生(君島一郎)	77	80
4	3	19150304		机上時論	法学士	岸巖	1	13
4	3	19150304		独逸落ち(四)／開戦当時の独逸国内地の景況	医学士	杉田直樹	14	36
4	3	19150304		膾を吹く		於菟平(岸巖)	36	44
4	3	19150304		夕飯の後		一社友	44	58
4	3	19150304		通信			59	60
4	4	19150413		「ホノル、」通信(其の二)		藤井生(藤井啓之助)	1	12
4	4	19150413		「ホノル、」へ(其の一)		譚溪生(君島一郎)	13	24
4	4	19150413		戦時の新聞		MN生	25	37
4	4	19150413		春宵襟筆		笑風生	38	40
4	4	19150413		水莊夜話		井澤弘	40	43
4	4	19150413		総選挙の後にて		泉生(君島一郎)	44	45
4	4	19150413		総選挙雑感		中央生	45	47
4	4	19150413		総選挙所感		地方生	47	48
4	4	19150413		乱鴻を見る／選挙雑感		於菟平(岸巖)	48	56
4	5	19150523		法文の文辞に付(一)	法学士	森川端夫(金森徳次郎)	1	6
4	5	19150523		医界漫言	社友	某医学士・談	7	14
4	5	19150523		時局放談		巨樟	14	19
4	5	19150523		晴耕録(玩具芸術)		決々学人	20	24
4	5	19150523		雑草		於菟平(岸巖)	25	32
4	5	19150523		社報			33	33
4	6	19150610	主張及研究	解散後招集せらるべき帝国議会の性質	法学士	森川端夫(金森徳次郎)	1	11
4	6	19150610	主張及研究	法文の文辞に付て(二)	法学士	森川端夫(金森徳次郎)	12	16
4	6	19150610	主張及研究	独逸の軍事公債	法学士	泉精太郎(君島一郎)	17	36
4	6	19150610	主張及研究	欧州大戦の経費及損失	法学士	泉精太郎(君島一郎)	37	45
4	6	19150610	縦横言	「ホノル、」へ(其の二)		譚溪生(君島一郎)	46	54
4	6	19150610	縦横言	「ホノル、」通信(其の三)		藤井生(藤井啓之助)	55	56
4	6	19150610	縦横言	帳中鬼語(一)	社友	谷崎潤一郎	56	59
4	6	19150610	縦横言	「ホノル、」へ(其の三)		譚溪生(君島一郎)	59	70
4	6	19150610		社報			70	70
5	1	19150710	主張及研究	独逸の軍事公債(其二、完)	法学士	泉精太郎(君島一郎)	1	22
5	1	19150710	主張及研究	非利出版物の発達に付きて	法学士	森川端夫(金森徳次郎)	23	34
5	1	19150710	主張及研究	伊太利の開戦に就て	法学士	遠藤始郎	35	39
5	1	19150710	主張及研究	慶長時代に於ける喫煙禁止法	法学士	小林鉄太郎	40	44
5	1	19150710	縦横言	世界の大都紐育に於て我帝国の新領土を見る	医学士	杉田直樹	45	62
5	1	19150710	縦横言	医学の研究と教育と学者と	医学士	MN生(長尾優)	62	70
5	1	19150710	縦横言	帳中鬼語(二)	社友	谷崎潤一郎	71	76

巻	号	発行日	コーナー名	タイトル	著者肩書	著者名	始頁	終頁
5	1	19150710	縦横言	掃除方法の改良を促す	医学士	〇生(城東生)	76	82
5	1	19150710	縦横言	独逸落ち(中立国から同盟国へ)大尾	医学士	杉田直樹	82	87
5	1	19150710	縦横言	大戦雑感	法学士	於菟平(岸巖)	88	93
5	1	19150710	社報	通信			94	95
5	2	19150810	主張及研究	米国に於ける我農民	社友/法学士	石坂泰三	1	16
5	2	19150810	主張及研究	国家思想の発達家族思想の衰微及之に伴ふ新制度の必要を論ず	法学士	森川端夫(金森徳次郎)	17	24
5	2	19150810	主張及研究	埃匈国に於ける戦時財政経済施設(其一)	法学士	泉精太郎(君島一郎)	25	42
5	2	19150810	主張及研究	巴奈馬運河の布哇に及ぼす影響(其一)		ロリン、エー、サーストン ／藤井啓之助:訳	43	53
5	2	19150810	縦横言	凉窓毒語(政変、官業、旅行案内)		決生	54	59
5	2	19150810	縦横言	学制改革案		瀧生(君島一郎)	60	63
5	2	19150810	縦横言	大隈内閣の辞職		晶生(君島一郎)	63	64
5	2	19150810	縦横言	言論内閣の覆滅	法学士	岸巖	64	69
5	2	19150810	縦横言	台湾に於ける土民教育		黙太郎(関口泰)	70	73
5	2	19150810	縦横言	田舎の町にて		照雨巷人(行森昇)	73	83
5	2	19150810	縦横言	海外に於ける日本人の覚悟	医学士	杉田直樹	83	89
5	2	19150810	縦横言	ホノル、通信(其の四)		啓之助	89	90
5	2	19150810	社報	通信			90	91
5	3	19150910	主張及研究	埃匈国に於ける戦時財政経済施設(其二)	法学士	泉精太郎(君島一郎)	1	17
5	3	19150910	主張及研究	恩給制度を論ず(一)	法学士	森川端夫(金森徳次郎)	18	31
5	3	19150910	主張及研究	巴奈馬運河の布哇に及ぼす影響(其二)		ロリン、エー、サーストン ／藤井啓之助:訳	32	36
5	3	19150910	主張及研究	我国現時の政治思想(上)	法学士	岸巖	37	44
5	3	19150910	縦横言	出版物に現はれたる誤謬(二)	法学士	宮浦唐司	45	49
5	3	19150910	縦横言	園外時論		黄堂(行森昇)	49	66
5	3	19150910	縦横言	帳中鬼語(三)		谷崎潤一郎	66	71
5	3	19150910	縦横言	浴泉行記		決生	71	75
5	3	19150910	縦横言	台北雑信	法学士	黙太郎(関口泰)	76	79
5	3	19150910	縦横言	内外紀聞	法学士	築地迂人	80	82
5	3	19150910	雑録及通信	ホノル、領事館の書記雇入の広告		啓之助	97	98
5	3	19150910	雑録及通信	病癒えて		松本生	98	102
5	3	19150910	雑録及通信	社報			102	102
5	4	19151010	主張及研究	埃匈国に於ける戦時財政経済施設(其三)	法学士	泉精太郎(君島一郎)	1	18
5	4	19151010	主張及研究	養嗣子の相続権	法学士	行森昇	19	30
5	4	19151010	主張及研究	巴奈馬運河の布哇に及ぼす影響(其三)		ロリン、エー、サーストン ／藤井啓之助:訳	31	48
5	4	19151010	主張及研究	夢(其一)		アंक、ベルグソン ／谷崎潤一郎:訳	49	53
5	4	19151010	主張及研究	我国現時の政治思想(中ノ一)	法学士	岸巖	54	61
5	4	19151010	時言及時事	井上侯を想ふ		瀧生(君島一郎)	62	66
5	4	19151010	時言及時事	米国雑感	医学士	大平得三	67	80
5	4	19151010	雑録及通信	前編集委員より		昇	81	82
5	4	19151010	雑録及通信	ホノル、通信		啓之助	83	83
5	4	19151010	雑録及通信	社報			83	83
5	5	19151110	主張及研究	埃匈国に於ける戦時財政経済施設(其四)	法学士	泉精太郎(君島一郎)	1	12
5	5	19151110	主張及研究	台湾教育概観(一)	法学士	森川端夫(金森徳次郎)	13	19
5	5	19151110	主張及研究	鉄道事故につきて	法学士	澤生	20	25
5	5	19151110	時言及時事	くるつぶ見物	医学士	無名生	26	54
5	5	19151110	時言及時事	英国湖畔の落人(一)	法学士	太田庄吉(太田正孝)	55	88
5	5	19151110	通信	通信			88	88

巻	号	発行日	コーナー名	タイトル	著者肩書	著者名	始頁	終頁
5	6	19151210	主張及研究	英国戦時財政第二年	法学士	太田庄吉(太田正孝)	1	21
5	6	19151210	主張及研究	聖書に於ける律法と近世法律	法学士	森川端夫(金森徳次郎)	22	29
5	6	19151210	主張及研究	埃匈国に於ける戦時財政経済施設 (其五)	法学士	泉精太郎(君島一郎)	30	34
5	6	19151210	時言及時事	御大祭前後／「ホノル、」へ(其の四)		饒溪生(君島一郎)	35	45
5	6	19151210	時言及時事	台北雑信		瀬名黙太郎(関口泰)	45	61
5	6	19151210	時言及時事	英国湖畔の落人(続)	法学士	太田庄吉(太田正孝)	61	95
5	6	19151210	時言及時事	医界漫語		亀北海人／城東隠士	96	102
5	6	19151210	通信	通信			102	102

(おぜき・ゆうき／東邦大学職員)